



干城録 卷第二十五

郷

藤十市 藤原政俊まさひでの兵庫政兼まさのり三男

存まこと賀かと政勝まさかつの弟あになり 家いへ先祖せんぞの

二階堂の末流しゆまとして出羽國山やま之郡

六郷むくさうの任にんけるより家歸いへかへりとせしなり

寛永かんえい 政兼まさのりの慶長けいちょうの年とし防方ぼうちうの属しゆくなり

功いさにより常陸國つらぎより二万石にまんごうを賜たまひ

後出羽國由利郡よりなされて二万石を  
順一寛永十一年二十八歳よりして卒次  
政俊寛永八年五月よりめり

大猷院殿よりなされて家同

十二年陽小性組一列寛永康米

二百俵をなす家今の西城新番  
六郷藤原の政興の祖なり

十五代政秀は兵庫政政乗の四男なり

よりめ右馬助より家濟

大猷院殿よりなされて伊書院の番士

となり寛永康米二百俵をなす家

家今の伊書院番  
六郷主馬政幸の祖なり